

ICCからの **CHRISTMAS CAROL** お知らせ

12月21日(日)2014
16:30 ~ 17:30 in 桜町教会
歌、祈り
子供、青年、お母さん、司教、司祭、助祭、シスター
英語、日本語、スペイン語
続いて
クリスマスパーティ。
皆さんのお出でをお待ちしています

facebook | ICC Takamatsu Diocese
intl.catholic.community@gmail.com | Gmail

「青少年クリスマス会」のご案内

期日：2014年12月23日(火・天皇誕生日) 10:00~16:00
場所：カトリック四国会館2階ホール
対象：中学生~青年(未洗者も大歓迎)
目標：①クリスマスの意義を青少年に味わってもらおう機会。
②受洗の有無、年齢、地域、環境の違いを超えた交流
③出しものや音楽を通して自分を表現してみる。

日程：(当日多少の変更可能性有り)
10:00 受付 10:15 歌、自己紹介
10:45 お話し、分かち合い 11:45 昼食
13:00 ゲーム・ビンゴ・出しもの
14:30 キャンツルサービス(祈りの集い)の準備
15:00 キャンツルサービス、分かち合い発表、記念撮影
16:00 解散

参加費：500円 青少年司教委員会 プラザー 八木信彦
TEL/FAX: (0884)22-1746 メール:nobby@kb4.so-net.ne.jp

小教区紹介 中島町教会 (高知)



高知市中心部に位置する当教会は、1882年(明治15)パリ外国宣教会のメンバーが、大阪から高知に派遣されて来られた時に始まりました。その後、1913年(大正2)現在の場所にドミニコ会によって献堂され、1945年7月4日の高知空襲によって焼失しました。ドミニコ会は本部を松山に移転し、1949年、米国から派遣されてきたオブレイト会(聖母献身宣教会)に引きつがれ現在に至っています。主日のミサの参加者は約60~70名。ミサ後は信徒交流の場として「コー

ヒーショップ」が開かれています。これは環境委員のメンバーが中心となって開かれるお茶会で、信徒、司祭、初めて教会を訪れた方も、年齢を問わず参加されています。

そこで語られる内容は、昔の教会のこと、自分の信仰生活について、子育ての悩みなど様々ですが、コーヒーとお茶菓子をつまみながら、気軽に話し合える場として定着しています。また、教会は近年、日本



中島町教会
梶原良信

人だけの教会ではなく、多国籍の人々が集う場へと変化してきています。担当司祭は、主日の午後と、平日に外国籍信徒の多い、須崎市、土佐山田町、野市町、中村市までも足を運んで、英語ミサを行っています。

その実りとして、例年、降誕祭、復活夜祭には、バイリンガルミサが行われていますが、そのミサやその後のパーティーへも多くの外国籍信徒の方々が参加されるようになってきました。

熱心なカトリック信者の多い国で育った彼らの熱い信仰心に触れ、日本人信徒も良い刺激を受けています。

今年、数年ぶりに国際協力委員会が復活し、小教区評議会に外国籍信徒の代表が参加してくださいるようになりました。お互いの交流の中で、小教区のこれからの、共に力を合わせて考えていきたいと思っています。

福音宣教師40年振り返る

西川康廣助祭

2014年9月30日をもって、私は教会生活における福音宣教師に携わって丸40年に達した。

この間を振り返りながら、神への感謝とともに共に歩んでくださった皆様方に感謝の意を表明したいと思いつ稿させていただきました。

自宅から教会まで子供の足で片道約3時間の徒歩道のり、毎週土日欠かすことなく教会へ通いました。

土曜日は公教要理(現代の日曜学校)、そして日曜神への感謝とともに共に歩んでくださった皆様方に感謝の意を表明したいと思いつ稿させていただきました。

結果的には大神学生時代に挫折し、一旦は社会生活を過ごしたものの、神学生時代に培ってきた霊的な道への憧れは決して薄れることにはなかった。

福音宣教への養成と派遣
社会生活を送りながら、大阪教区・伊丹教会で一人のオブレイト会司祭と出会い、



西川家は父の代からカトリック教会へ改宗し、私が5歳くらいの時のクリスマスの夜に一家揃って洗礼の秘跡にあずかりました。

熱い信仰を持つ両親の背中を見て育った私たちが子供たちは、日常の生活の中で「神様が一番」の精神を徹底的に教え込まれました。

このような環境の中で育った私は、子供の頃から司祭への憧れを抱き始め、かつては神言会に属し司祭への道を志し、長崎の小神学校を卒業後、名古屋の大神学校で生活を過ごして参りました。しかし、諸般の理由から

神に感謝 共に歩んだ人々に感謝

種々の教会活動に参加しながら教会で働くことへの喜びと憧れが日に日に増していったことを覚えています。

こうして1974年10月1日から伊丹教会において、オブレイト会伝道師としての道を歩むことになった。

当時、伊丹教会には既にベテランの伝道師がおられた。私は私が当時の主任司祭に招かれた理由は何だったのか。彼は私によくこんなことを話した。

「第2バチカン公会議後の混乱の時代を経て、当時の日本の教会で働く司祭の平均年齢は54歳、将来日本の教会においては少子高齢化が進み、司祭・修道者の減少、召命減少、信徒の高齢化が顕著に表れてくることになる。そのような時代の到来に備えて今から将来の教会奉仕者の準備を始めないといけない。多くの貴重なユダヤ伝統に教会奉仕者の育成は10年、20年、30年間を要する」と。

私の福音宣教師への養成は、伊丹小教区で司教実習を積み重ねながら3年間英知大学へ通い、聖書学、典礼学、教父学、神学などを学ぶことから始まった。加えて半年間カナダでオブレイト会が支援活動していた「フロンティア・アポストレート」、つまりカナダのインディアン居住区において小教区や教育施設ではボランティアの歩みのシンボルでもあり

た、感謝のうちに思い起こしております。

私の神学校生活は、多くの支えを頂いて、ようやく3年目を終えようとしております。スムーズに行くことばかりではありませんが、志を同じくする仲間との祈り・学び・交わりの意味を感じる毎日です。

これからも、光を求め歩み続ける希望を新たにし、待降祭・降誕祭を過ぎて参りたいと思っております。皆様の上に恵みと祝福が豊かにありますように。

神学科1年 高山徹

「生きている」お恵みに感謝

中島町教会 青木修子さん (94歳)

ひと

大阪の関目教会で、初めてキリスト教に出会いました。本を読むのが何よりも好きで、自分で2冊出版しました。「まぼろしのふるさと」「はるかなる旅路」

ふるさととは現在の高知県土佐町森という所です。まずはプロテスタントの教会に足を運びました。親しい友からカトリックが始まりですと言われ、1949年8月15日 29才の時、江の口教会で受洗、霊名はカタリナです。

教会ではあまり友はいません。年老いていろいろ忘れても、信仰は忘れません。それは生きる力です。「信仰は力なり」いつもそう思っています。現在94才になりました。神に感謝しています。お恵みは生きている事です。私は若い人たちに信仰のことを聞きたいです。神様に言いたいことは感謝の一言です。楽しみなのは毎日のよいニュース



最後に今まで出会った神父さんで、誰をよく覚えていますかと聞きましたら、江の口教会にいた頃においた竹田神父様と答えられました。いつまでもお元気で。

中島町教会 梶原良信

いつもお祈りのご支援をありがとうございます。少しクリスマス関係でお話をさせていただきます。

待降祭は、イエスがお生まれになったことを今一度思い起こすこと、そしてイエスの再臨という未来への希望を求めること、これら2つのことがテーマとなっております。

イエスは光にもたとえられます。光についての1つの原体験(降誕ミサの入堂時、子ども中心にキャンドルサービスをしたこと)が、今も当時の喜びと共に思い起こされます。

真冬の寒さと夕闇の中で照らし出される灯火の光と温もりは、さながらその後

神学生便り 降誕ミサの光の温もり



何より、家族の愛を基に、物心ついた頃から教会生活を軸に、多くの人の関わりの中で私は育てて頂いたこと、司教様・神父様、職場の諸先輩方等、師と呼ぶ方々や友との出会いを涙山頂いてきたと思えます。

自分の未熟さ故に、先行きの見えにくい暗闇に入っても必ず光を見出すことができました。

(「暗い、暗い、と言っていないで、進んで火を灯さない!」と叱咤激励のメッセージを頂いたこともありました。)

ちよひひんぎ



メリクリスマス

小天使たちは
ローソクを片手に燻を
キラキラ光らせて
クロリア・聖夜・主は
来ませぬを歌う・

大天使たちは
それにバイオリンと
オルガンで唱和し
ファン・ゴッホの絵の
ようなスライドで
主の誕生を見せ
くれる

始めは悲しく・美しく
そして次第に
僕は黄金の像に
なったように
喜びで輝きたした

僕の前にクロリア
僕の横にクロリア
僕の後にクロリア
僕の頭上にクロリア

僕はこの良き日を
今までディケンズの
クリスマスキャロルの
スタイルのように
心から祝したことが
なかった

しかし・・・
この小天使の歌声は
どうだ
あ、今 光の祭りの
真ん中

僕は心の中で
メリクリスマス
メリクリスマス
と祈っていた
主よ、一つにして
ください



石清

イスラエル巡礼もお恵み

西川助祭のご指導による「聖書に生きる」講座を終えることができ、私は今の大きなクリスマスプレゼントに喜びと感謝で満たされています。

この講座が始まった2007年秋、丁度佳伊前私は交通事故で入院手術をしまして、体力的にも参加出来る自信はなかったのですが、お誘いを受け「おそおそ」勉強を始めました。

＜全聖書読み終えて＞



現在のエルサレムの風景

毎週のミサの聖書朗読も以前より心に響き残るようになりました。詩編の美しい祈りの言葉、少し難解であったパウロの手紙、私

ちよやくやくイェス様のことを話して下さっているようなヨハネ福音書。3年前、グループの皆様との「エジプト・シナイ山・イスラエルへの巡礼旅行」に、未信者の主人に付き添ってもらい参加することができたのも大きなお恵みでした。途中休むこともありましたが、再び参加することが出来たように、楽しい月曜日となって参りました。

私はある機会に、林神父様の「石が叫ぶ福音」という本を読んだ。その本から、社会の底辺にある人々と共に歩む林神父様の不条理に対する腸から絞り出すような怒り、他人に対する思いやり、優しさ、温かさ、逆境にあってもなお希望を失わない強さが伝わってきた。ぜひ一度講演会があれば参加して、神父様にお会いしたいと思っていたところにその機会が訪れた。

11月2日から3日にかけて、高松教区人権を考える委員会と日本カトリック正義と平和協議会の共催で、イエズス会林尚志神父様の練成会が高松教区四国会館で開催された。「今の日本の流れと教会の目指す方向」というテーマに、東京やプロテスタン



桜町地下聖堂にて記念撮影

その人と向き合い、その人が持っている掛け替えのなさを発見し教えられる、善意はすべての人にある、誰も排除せず受容することを考

旧約聖書から新約聖書まで、通読したことがない私は「聖書を知らないのは、キリストを知らない」と、以前から思っていました。時期的にも定年退職とともに「聖書100週間」の勉強会に参加できたことは私に与えられたお恵みでした。途中休むこともありましたが、再び参加することが出来たように、楽しい月曜日となって参りました。

特に、自分が発する聖書の箇所は、何回も読みまわすうちに、み言葉が、私に呼びかけて下さっていることを知り、今迄も、常に聖句を口ずさんでいました。学ぶたびに次々と、また新しい「み言葉」に出会っていました。朝ミサに参加する時に、知恵を求め

①聖地巡礼「モーセとイエスの足跡を訪ねて」に参加できたこと。
②シナイ山(2285m)に登り午前6時、山頂にて日の出の中で「ことばの祭儀」に参加できたことは、静寂に包まれた無言の感激でした。(その他、沢山あります。)

③新約聖書を理解するためには、何度も質問し聞きまわりましたが、旧約聖書を知ること

④重要な箇所は、聖書の何章にあるかを覚えることは、出来ませんでした。神の計画を知るために大切であることを、勉強が終わって気がきました。

今から出発点だと思っ「兄弟のように、ともに住むのは・・・」の歌のように親しくなれたことが、一番嬉しいことでした。

カトリック桜町教会
山地方ツコ

アンナ 金本真弓

み言葉が呼びかけて下さる

①聖地巡礼「モーセとイエスの足跡を訪ねて」に参加できたこと。
②シナイ山(2285m)に登り午前6時、山頂にて日の出の中で「ことばの祭儀」に参加できたことは、静寂に包まれた無言の感激でした。(その他、沢山あります。)

③新約聖書を理解するためには、何度も質問し聞きまわりましたが、旧約聖書を知ること

④重要な箇所は、聖書の何章にあるかを覚えることは、出来ませんでした。神の計画を知るために大切であることを、勉強が終わって気がきました。

今から出発点だと思っ「兄弟のように、ともに住むのは・・・」の歌のように親しくなれたことが、一番嬉しいことでした。

カトリック桜町教会
山地方ツコ

アンナ 金本真弓

えたい」と言われた。そこにはいつも隅にいる人を心に掛け、苦業を共にしようとする林神父様の生き方があった。続いて、イラクで拘束された勇気ある高校生、今井くんの話があった。彼は、イラク戦争で使用

された劣化ウラン弾によって、多くの罪のないイラクの子供たちが小児がんや白血病で苦しんでいる状況に心を痛め、二度と劣化ウラン弾が使用されることがないようにと、劣化ウラン廃絶の活動を続けていた。彼は劣化ウランの被害の実

大切なことは何かということ

初めての集会祭儀の恵みに感謝

カトリック八幡浜教会は、明治三十年頃からシヤロン神父様が伝道を始めました。昭和九年インドロ・アグネス神父様が借家での伊崎氏による日曜学校を開始したこと

から、本格的な宣教が行われました。今年には宣教八十年になりました。昭和十三年マルシャ・ノ・ティエス神父が幼稚園と仮教会を建設し独立した小教区になりました。

本年六月一日に創立七十七周年を迎え、同日、諏訪榮治郎司教様は、五名の信者に集会社司者・聖体奉仕者の任命を行いました。五月から南予ブロック長

田中神父様による集会社司者・聖体奉仕に関する勉強会がミサの後に行われ、それ

の信仰生活の節目として新たな使命を感じたものでした。担当司祭アルベルト神父様と田中神父様から、主日のミサを司式する司祭が派遣できないため、八月十日

八幡浜教会の当日の参加者は8名でした。司会、聖体奉仕、オルガン、詩編唱者、朗読、それぞれが役割を果たしました。

八幡浜教会
西園寺良徳

司教様の導きによる新たな恵みに感謝申し上げ、当地での召命への深い思いを心にする機会でもありました。私たちの小さな働きが、みことばを生かす力となりますように。

日曜日に上記の任命された信徒による「司祭不在時の信徒による集会祭儀」を実施するよう指示されました。そこで、八月三日に両教会で田中神父様指導のもとで集会祭儀シミュレーションを行い、当日を迎えました。

勇気づけ、安心させてくれる嬉しかった。最後に、日本カトリック正義と平和協議会からの活動報告があった。その活動は、「地上の平和活動は社会に対する愛です。市民と共にやってみよう」と。市民と共に行うべき活動は、

和の為に活動しなければならぬ」という活動を受けて行われていることであ

る。また、ベネディクト16世の「神の国は想像上の未来ではなく、神の愛が達しているところ」。教皇フランシスコの「福音宣教とは、この世界に神の国を創ること」とする回勅にも触れられた。二人が言われていることは、愛と正義と平和が行き渡った状態が神の国なのだという

ことだった。この言葉は、林神父様の人柄や生き方に触れて、相手と同じ立ち位置

高松教区 人権を考える委員会 尾崎壽一

私には練成会に参加して、

燃えていたらと、どんなに願っていることか(ルカ12:49)を受け継ぎ続け、もっと多くの人が繋がりたいと思っ

「私が来たのは地上に火を投ずるため」

林尚志神父の練成会に参加して

された劣化ウラン弾によって、多くの罪のないイラクの子供たちが小児がんや白血病で苦しんでいる状況に心を痛め、二度と劣化ウラン弾が使用されることがないようにと、劣化ウラン廃絶の活動を続けていた。彼は劣化ウランの被害の実

大切なことは何かということ

高松教区 人権を考える委員会 尾崎壽一

